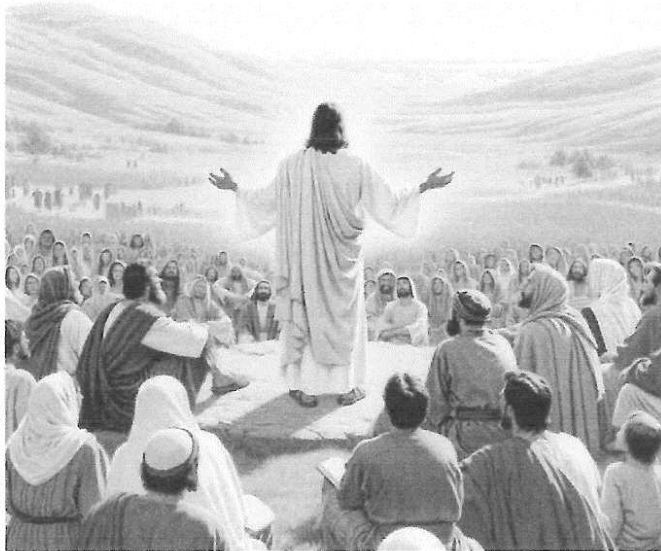


〈主の戒め〉

マタイ7：9～12



【ソマリランド共和国】

モーセの律法は全部で 613 の戒めがあったが、その中で重要なものは何か？
イエスさまはこの教えを二つの戒めに要約し、相手を屈服させた。

心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。 マタイ 22：37
あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。 マタイ 22：39

二種類の愛を軸にする時、律法が語る全体像が見える。

◆愛することが大切と言われても漠然として分からない。そこで神はモーセの律法を通して、噛み砕いて色々な言葉で語られた。

それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい。
これが律法であり、預言者です。 マタイ 7：12

「～をしない」ではなく「すること」が特徴。積極的な戒め。

人の常・・・笑顔で応対すれば笑顔が返ってくる。睨んだら、睨み返される。

613 の戒めを一つずつ取り上げて、一つを守れば安心。守れなければ落胆・・・。
更には自分を棚に上げて、あの人はどうか、この人はどうかと、他の人に適用し裁く。

そうではない！

聖書の戒めの中心点にあるのは愛。そして愛は律法の要求を満たすもの。

- ◆形の上で「あれは守れた、これは守れなかった」の追求ではなく、自分がしてもらいたいことを他の人にすること。これは、相手の立場になって考え、その人にとって何が神の前に必要かを探し、出来ることをして上げること。相手を理解する力が求められる。自分が良いと思うことを押し付けるものでもない。